

9月議会本会議 請願の賛成討論(9月28日) 田口一登議員

日本軍慰安婦問題について日本政府に誠実な対応を求める意見書提出に関する請願

## 真実に向き合って、誠実な対応をとることで 日本とアジアとの連帯・友好がさらに発展

9月28日の名古屋市議会本会議で、閉会中に審査された請願のうち、3件について採決が行われ、日本共産党名古屋市議団は「日本軍慰安婦問題について日本政府に誠実な対応を求める意見書提出に関する請願」について、田口一登議員が採択を求める討論を行いました。田口議員の討論を紹介します。

### 女性の人権にかかわる重大な問題

私は、日本軍慰安婦問題の意見書提出に関する請願の採択を求めて討論を行ないます。

日本軍慰安婦問題は、日本の過去の戦争において、各地に日本軍兵士のための慰安所がつくられ、日本の植民地だった朝鮮・台湾などアジアの女性たちが、強制的あるいはだまされて連行され、兵士の性暴力にさらされたという、女性の人権にかかわる重大な問題であります。

### 謝罪表明の「河野談話」をくつがえす動き

日本政府は1993年、この問題に関する調査を踏まえて発表した「河野官房長官談話」で、旧日本軍の関与や強制性を認めて謝罪しました。ところが、その後、「河野談話」に示された日本政府の基本的な立場をくつがえそうとする動きが強まりました。それは、靖国神社の問題や「歴史教科書」問題などに現れた「日本の戦争は正しかった」とする日本の戦争の「名誉回復」論と一体に展開されました。

(参考：9月15日の本会議)

#### 藤沢議員の質問に対する市長答弁の概要

「教科書選定の討論会を市や教育委員会主催で開け。自虐史観でいいのか。市長の歴史観を示せ」との質問に、市長は「今の採択の仕組みはわけのわからんところで、わけのわからん展示会をやって、市民の知る権利をやったのか。一方的な自虐史観にもとづいた、なんでも謝ってこようという国家像に対しては今こそ立ち上がらなくてはいけない。」

### 「侵略戦争」は国際世論も一致する

あえて申し上げますが、日本がアジアでやった戦争は、最初から、他国の領土を取ることを目的にして戦われた戦争であり、ドイツ、イタリアがヨーロッパでやった戦争とともに、いかなる大義ももたない侵略戦争だったということ



とは、国際社会が、第二次世界大戦という悲惨な経験の中から、一致していただいた結論であります。

### 反省を引き継ぐことで世界に胸がはれる

アジア諸国にたいする侵略戦争と植民地支配の歴史から目をそらすのではなく、それへの反省をのちのちの世代にまで引き継いでこそ、日本が世界に堂々と胸をはって生きてゆけると、確信しています。

### 誠実な対応で連帯・友好が発展する

日本軍慰安婦問題でも、日本政府が誠実な対応をとるならば、日本とアジアとの連帯・友好がさらに発展するでしょう。以上から、本請願の採択を求めて、討論を終わります。

\*採決の結果、賛成したのは共産党だけ。減税日本と自・公・民が反対して不採択となりました。

### 議会報告会開催を求める請願に減税が反対

「議会報告会の開催を求める請願」について、委員会で採択されましたが、減税日本の議員2人は賛成、2人は反対しました。議長や議運の委員長（いずれも減税）は議会代表として報告会の開催を市長に求めており、減税日本の態度が注目されましたが、結局1人（田山議運委員長）が賛成、委員会で賛成した玉置、鈴木議員を含む6人（堀田、舟橋、加藤、大村の各議員）は退席し、請願は採択されました。